

報道関係者各位

2017年8月18日

慶應義塾大学 SFC 研究所
釜石市

釜石市と慶應義塾大学 SFC が「地方創生に関する連携協力協定」を締結

— 釜石市の復興まちづくりとラグビーワールドカップ開催を活かした、
「オープンシティ釜石」と「社会イノベーション」を加速させる研究開発に挑戦する
「地域おこし研究員（大学院生・進学希望者）」を募集します —

釜石市（市長：野田武則）と慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）の2学部・1研究科・1研究所（総合政策学部（学部長：河添健）、環境情報学部（学部長：村井純）、大学院政策・メディア研究科（委員長：清木康）、SFC研究所（所長：飯盛義徳）：以下、慶應SFC）は、2017年8月21日、相互に連携協力することにより、**未来社会を先導する人材育成、活力ある地域社会の形成及び実学の促進**に寄与することを目的とする、「地方創生に関する連携協力協定」を締結します。

8月21日（月）、釜石市にて、釜石市代表（野田武則）と、慶應SFC代表（河添健）による調印式ならびに関係者列席による記者会見を行います。

慶應SFCと釜石市は、これまで「復興のまちづくり（2011年度～）」や「ラグビーのまちづくり（2007年度～）」などに関わる実践や調査研究を協働で推進してきましたが、今回の連携協力を契機に、「オープンシティ釜石」を加速させることを目指し、協働で取り組む活動をさらに充実させていきます。

その第一弾の活動として、釜石市に在住し、また、慶應SFCや全国各地と行き来しながら、大学院政策・メディア研究科（社会イノベータコース）の修士課程や博士課程等にて研究開発に取り組む「**地域おこし研究員**」を募集します。地域おこし研究員は、慶應SFCから、テレビ会議システムや対面での助言・研究指導を受けつつ、地域の協力のもとで、釜石市の復興まちづくりとラグビーワールドカップ開催を活かした、「オープンシティ釜石」と「社会イノベーション」を加速させる研究開発に挑戦していきます。

【釜石市と慶應SFCによる「地方創生に関する連携協力協定」について】

1. 概要

（目的）

この協定は、釜石市と慶應SFCが密接な連携のもと、相互に協力することにより、未来社会を先導する人材育成と、活力ある地域社会の形成、実学の促進に寄与することを目的とします。

（連携協力事項）

釜石市と慶應SFCは、前項の目的を達成するため、次の事項について連携し、協力をします。

- (1) 釜石市の地域資源を活用した地域活性化に関すること
- (2) 釜石市の地域振興に係る研究・教育活動に関すること
- (3) 地方創生や社会イノベーションを担う人材育成に関すること
- (4) 両者の知的、人的及び物的資源の活用に関すること
- (5) その他この協定の目的を達成するために必要な事項に関すること

2. 協定締結式

日時：2017年8月21日（月）11時～

場所：釜石市役所本庁舎2階第2会議室

（〒026-8686 岩手県釜石市只越町3丁目9番13号）

出席者（予定）： 釜石市 野田武則（釜石市長）、佐々木義昭（釜石市議会議長）
山崎秀樹（釜石市副市長）、正木隆司（釜石市総務企画部長）

慶應SFC 河添 健（総合政策学部長）
玉村雅敏（総合政策学部教授、SFC研究所社会イノベーション・ラボ代表）
横田浩一（大学院政策・メディア研究科特任教授）※
岩月基洋（SFC研究所上席所員）※

※ SFC研究所 社会イノベーション・ラボ「釜石SFC連携」担当

3. (参考)「オープンシティ釜石」と「社会イノベーション」を加速させる研究開発について

釜石市では、復興後の将来を見据えたまちづくりとして、「釜石市オープンシティ戦略」を推進しています。釜石には、昔から「変化に開かれたDNA」があり、また、「震災後に生まれた新しいつながり」や「生まれ始めた市民発のプロジェクト」も充実しています。そこで、「多様な人々が集まる、開かれたまち」を目指して、「オープンシティ」を合言葉に、人と人がつながり、新しい可能性を広げていくことに取り組んでいます。

慶應 SFC の SFC 研究所 社会イノベーション・ラボでは、社会は「つながりのネットワーク」との認識のもと、社会課題の解決をもたらすことを念頭に、新たな商品・サービスや制度・組織などが作られることによって、人々のつながりや相互作用に変化をもたらすことで促進される「社会イノベーション」のあり方や、その実践モデル、支援ツール、科学技術イノベーションと社会イノベーションの相乗効果の実現モデルなどの研究・開発に取り組んでいます。

こういった釜石市と慶應 SFC の連携のもと、「オープンシティ」や「社会イノベーション」に関する研究開発・実践を推進していきます。

具体的には、例えば、「2019 年ラグビーワールドカップ開催を見据えたサステイナブルな観光地域づくりへの取り組み」や、「グローバルレベルで通用する多様性を包摂するダイバーシティ、オープンなまちづくりの推進」、「ラグビーのまち釜石」におけるスポーツを活用したまちづくり、「震災復興の過程や地方ならではの社会課題とその取り組みを、都会の高校生などの教育の場として提供する「ソーシャルツアープログラム」の開発」などが想定されます。

4. (参考) 釜石市「地域おこし研究員」の募集・任用

釜石市では、復興まちづくりとラグビーワールドカップ開催を活かした、「オープンシティ釜石」と「社会イノベーション」を加速させる研究開発に挑戦する「地域おこし研究員」を募集します。

「地域おこし研究員」は、慶應 SFC (SFC 研究所 社会イノベーション・ラボ) や長島町(鹿児島県)・神石高原町(広島県)・三条市(新潟県)・釜石市(岩手県)などが共同で提唱・推進するもので、総務省「地域おこし協力隊」制度や「復興支援員」制度等を活用し、地域に在住しながら、地域の地方創生に資する実践的な研究活動を行う大学院生等を対象に、自治体の選考により任用するものです。
※ 他の地域や組織でも準備・検討されています。

慶應 SFC では、大学院政策・メディア研究科(社会イノベータコース)にて、地域おこし研究員に対して、遠隔と対面の助言や研究指導を行い、実践的な研究成果を達成できるように支援します。また、各種の講義や演習をEラーニングやビデオ会議のシステムを用いて、遠隔受講できるようにすることや、現地での実践的な研究活動を行いながら学ぶからこそ、効果的に学習できる授業設計を行います。

釜石市での「地域おこし研究員」は、研究員が自ら設定したミッションを起点に、慶應 SFC の指導・助言のもと、「オープンシティ釜石」と「社会イノベーション」を加速させる研究開発に挑戦することを期待しています。

その募集や任用に関する詳細は、慶應 SFC 「地域おこし研究員」Web サイトや、説明会(8/30(水)18:30より慶應義塾大学三田キャンパス大学院棟313教室で開催)にてお知らせします。

参考:「地域おこし研究員」Web サイト (<http://si.sfc.keio.ac.jp/si-researcher/>)

参考:『地域おこし研究員』第3回説明会・個別相談会 (<http://si.sfc.keio.ac.jp/si-researcher/news/007/>)

<本件に関する問い合わせ先>

- 釜石市総務企画部オープンシティ推進室(電話)0193-27-8463(担当:石井・青柳)
- 慶應義塾大学 SFC 研究所 社会イノベーション・ラボ(電話)03-4590-0444
(E-Mail) tama-lab@sfc.keio.ac.jp (担当:菅井・稲垣・岩月)